

令和5年9月21日付【水道産業新聞】
 水コン協 関西支部(CWO 共催)
 「水の教室」で実験や観察
 <下水道への関心深める>



約40人が参加した「水の教室」



熱心な子供たちの姿が

「水の教室」で実験や観察

関水コン CWO 下水道への関心深める

全国上下水道コンサルタント協会関西支部(関水コン)と、クリアウォーターIOSAKA(CW)はこのほど、「水の教室」を大阪市下水道料

学館内で開催した。水の
実験や微生物の観察、ク

イズを通じ、水について学ぶイベントで、小学生ら約40人が参加した。

冒頭、押領司重昭・関水コン会長(三水コンサルタント専務取締役)は「何気なく使っている水に関心を」とあいさつ。

続いて、関水コンの担当者が下水道の役割や処理工程などを説明し、CWOの担当者は、汚水をきれいにする微生物の紹介や観察に加え、水の実験では表面張力や活性炭による脱色などを行った。

クイズでは1人の1年間分の糞を活用した電気で10WのLED電球を約1カ月照らせ、水素で燃料電池自動車を約20分走らせ、ガスでお風呂1杯分の水を沸騰させ、肥料でリンゴ500個が栽培できることなどを紹介。

最後に、今野和弘・関水コン副会長(日水コン執行役員)は「下水道では自然の力を利用し、水をきれいにしており、水循環へも理解を」などと締めくくった。